

(株) サーフボード

心の病の兆候早期把握

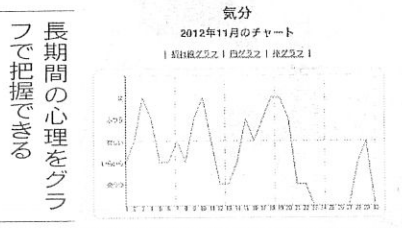
サーフボードがクラウド

【福井】ホームページ制作とシステム開発を手

掛けるサーフボード(福井市、田嶋節和社長)は

従業員が日々の気分や体調を簡単な操作で入力するだけで、心理的ストレスの変化を時系列で把握できるクラウドサービスを始めた。従業員のうつなど心の病の兆候を経営者が早期にとらえることで発症を未然に防ぎ、人件費の増大につながる休退職を減らす。主に中小企業を対象に売り込む。

サービス名は「こころの天気図」。従業員は毎朝、パソコンやスマートフォンブラウザで専用ページを開き、その日の体調と気分、睡眠量、食欲の4つの質問を5段階で入力する。作業は20〜30秒で完了する。うつつの症状を診断する場合、通常は簡易抑うつ



長期間の心理をグラフで把握できる

症状尺度(Q-I-D-S-J)と呼ぶ16項目からなるテストを受ける。サーフボードは、長期間入力を継続できるように、福井県内の大学の心理学科の教授陣や産業カウンセラーのアドバイスを受け、質問を4つに絞った。回答結果は合算され点数で表示される。データはカレンダー上でアイコンで示したり、折れ線グ

ラフで表示したりして気分の変化を視覚的にとらえられる。

個別の従業員のデータは、本人以外はサーフボードと契約した外部の社労士やカウンセラーしか閲覧できない。経営者が組織全体のストレスを把握することを目指しているためだ。ストレスの変化を部署単位で観察することで、個別の従業員が心の病を発症する前に変化を察知する。

従業員1人当たりのサービス利用料は最低利用期間である半年間で1260円。初年度10社、3000人の利用者獲得を目指す。

従業員は「健常者」であるとの前提で質問をするため、「(心の病の兆候が疑われた場合に)医師にかかるきっかけを見つめる仕組みで、医療行為ではない」と、サーフボードでは説明している。